

概要

- 西布施ぶどうは、県内最大のぶどう産地であるが、労働力不足のうえ、鳥獣被害が相次ぎ、営農意欲の低下が課題
- このため、新川農林振興センターでは、センサーカメラや現地巡回による被害実態調査を行い、調査結果に基づいた適切な柵の設置・維持管理方法を指導。また、高校生に柵を設置するボランティアに参加してもらい、人手不足にも対応。
- その結果、鳥獣被害が減少し、生産者の営農意欲が向上するとともに、高校生を介した中山間地域活性化につながった。

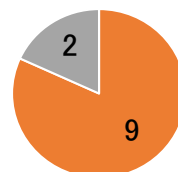
具体的な成果

- 1 加害獣種に応じた侵入防止対策と営農意欲の向上
 - 農家が加害獣種に応じた適切な侵入防止対策を実践し、被害が減少
柵の新規設置：1,377m
R5対策前：13万円⇒R5対策後：2万円
 - 緩衝帯整備によるサルの侵入・被害の減少
R5対策前：32万円⇒R5対策後：12万円
 - 当初、離農の意向を示していた被害農家2名が、営農意欲の回復により次年度以降も営農継続
- 2 新川高校ボランティアの協力による中山間地域活性化
 - アンケートの結果、参加したほぼ全員から「ボランティアにまた参加したい」全員から「西布施ぶどうをまた食べたい」との回答があり、**産地PR及び被害農家のモチベーションが向上**
 - 次年度以降も新川高校によるボランティアが継続することとなり、中山間地域における**新たな外部人材の確保に成功**



写真 新川高校ボランティアとのネット柵設置

ボランティアにまた参加したいか



● 参加したい ■ 内容によっては参加しても良い

図 参加者アンケート結果

普及指導員の活動

令和5年3月	■ 被害農家からの鳥獣被害状況の聞き取り調査
令和5年4月～	■ センサーカメラによる被害実態調査（いつ、どこから、どんな獣種が侵入したか特定）
令和5年6月	■ 新川高校への柵設置のボランティア協力依頼
令和5年7月	■ 農家や関係機関の役割分担の明確化し、効率的な実施体制を構築
	■ 被害があった場合の情報共有ルートを作成し、関係機関で迅速に対応
令和5年7～8月	■ 現地巡回による被害実態調査
	■ 加害獣種に応じた適切な柵の設置・維持管理指導
令和5年8月	■ 鳥獣害対策研修会
	■ 専門家との現地巡回による侵入防止対策強化
	■ 新川高校ボランティアの協力によるネット柵設置
令和5年10月	■ 侵入防止柵の設置・維持管理チェックリストの作成・配布
	■ GISソフトによる被害状況・対策状況マップの作成・配布
令和5年12月	■ 農家へのボランティア参加者のアンケート結果の配布

普及指導員だからできたこと

- ・センサーカメラやGISソフトを活用し、どの圃場で被害があって、どこに問題があったのかという被害・対策状況の「見える化」を行い、分かりやすい情報共有を心掛けるとともに、対策検討に活用した。
- ・農家や関係機関と話し合って役割分担を明確化するとともに、被害があった場合の情報共有ルートを作ることと、短期間で効率的かつ効果的な鳥獣害対策を実践する体制ができた。

富山県

鳥獣害対策を通した中山間地域活性化の取組み ～中山間地域の持続的発展に向けて～

活動期間：令和5年度～（継続）

1. 取組の背景

県内最大のぶどう産地である西布施ぶどう（魚津市）において、令和4年度に291万円の鳥獣害があった。被害農家からは、「鳥獣害が酷く、農業を続けられない。労働力不足や高齢化で鳥獣害対策まで手が回らない。」との意見が聞かれ、喫緊の課題となっていた。そこで、①労働力不足等への対応、②鳥獣害に負けない持続可能な産地づくりに取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）被害実態の把握

ア センサーカメラ等による調査

被害実態（加害獣種や侵入経路等）を把握するためのセンサーカメラを設置した。イノシシ及びハクビシン、サルの侵入・食害が確認された（写真1）。



写真1 ぶどうを食べるイノシシ(左)とイノシシ被害(右)

イ 情報共有体制づくり

被害が発生した場合、組合長がとりまとめ、JA・魚津市・農林振興センターとのグループLINEで早急に情報共有し、関係機関が連携して迅速に対応できるようにした。

（2）鳥獣害対策の推進

ア 役割分担の明確化

効率的に鳥獣害対策を実践するため、農家・関係機関で話し合っ

表 関係機関の役割分担

関係機関	役割
農家	柵の設置・点検、追い払い、農作物の残渣処理
ハンター	有害鳥獣の捕獲
JA	資料配布、農家との調整
市役所	補助事業の運用、ハンターとの調整
振興センター	対策提案、技術指導、JA・市役所との調整

て役割分担を明確にした（表）。

イ 侵入防止柵（以下、柵）の設置・維持管理指導

被害圃場の現地点検を行ったところ（写真2）、既設柵には不適切な設置事例が多くみられた。そこで、加害獣種に応じた適切な柵の設置・維持管理方法を身に付けるための現地指導や研修会を行った。また、柵の設置・維持管理のポイントを加害獣種ごとにまとめたチェックリストを作成し、農家全員に配布した（図1）。

GISソフトを活用し、現在の被害状況・対策状況を「見える化」したマップを作成し、対策検討に活用した（図2）。



写真2 関係機関との現地点検



図1 侵入防止柵チェックリスト

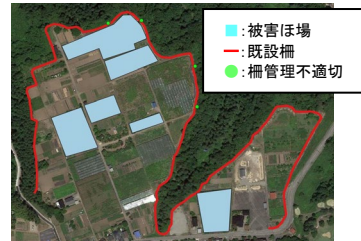


図2 被害・対策状況マップ

ウ 高齢化・労働力不足への対応

労働力不足等により農家のみで柵が設置できていない園地は、学校法人荒井学園新川高等学校（以下、新川高校）にボランティア協力を依頼し、高校ボランティア（生徒9名、先生2名参加）とともにネット柵約400mの設置を行った（写真3、R5中山間地域保全パートナーシップ推進事業を活用し参加者のバス代・傷害保険料を支出）。



写真3 新川高校ボランティアとのネット柵設置

また、産地の概要説明やぶどうの試食等を行い、高校生に農業や産地の魅力を伝える取組を行った。今後の中山間地域活性化に向け、参加者アンケートも実施した。

エ 専門家派遣による侵入防止対策強化

農作物鳥獣被害対策アドバイザーの古谷氏に依頼し、農家と共に現地点検を行い、助言に基づき侵入防止対策を強化した。

オ 鳥獣が近づきにくい環境整備

サル被害圃場では、柵近くの竹藪からサルが飛び移って侵入したため、補助事業（R5水と緑の森づくり事業、R5多面的機能支払交付金）を活用して竹藪を伐採し、鳥獣が近づきにくい緩衝帯整備を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）加害獣種に応じた侵入防止対策と営農意欲の向上

農家が、加害獣種に応じた侵入防止対策を理解し、柵の新規設置（観音平エリア677m、天神山エリア700m）及び既設柵の補強を実践した。適切に対策を実践できた圃場（天神山エリア）では、対策後は被害が減り（対策前：13万円⇒対策後：2万円）、鳥獣害対策の重要性と適切な対策を行えば被害が防げることを示せた。

環境整備によりサルの侵入・被害は減少し（対策前：32万円⇒対策後：12万円）、整備した緩衝帯が効果を発揮した。

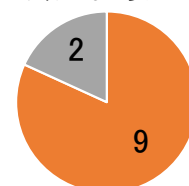
関係機関によるサポート体制等が構築されたこともあり、当初、離農の意向を示していた農家2名が、来年度以降も営農継続することとなった。

（2）新川高校ボランティアの協力による中山間地域活性化

今回の取組みがテレビや新聞で紹介されるとともに、参加者のほぼ全員から「ボランティアにまた参加したい」、全員から「西布施ぶどうをまた食べたい（買いたい）」とのアンケート回答があり、産地のPR及び被害農家のモチベーション向上に繋がった（図3）。

新川高校に今後の協力を打診したところ、引き続き農業ボランティア（鳥獣害対策や袋掛け等）に協

ボランティアにまた参加したいか



■ 参加したい ■ 内容によっては参加しても良い

図3 参加者アンケート

力していただけることとなり、中山間地域での新たな外部人材の確保に成功した。

4. 農家等からの評価・コメント（西布施ぶどう組合 組合長 入井 孝夫氏）

西布施ぶどう組合は、67年の歴史があるが、ここ15年程で有害鳥獣の被害が増えてきた。私の親がぶどう栽培をしていた頃は、カラス対策だけをしていれば、ぶどうの被害は比較的少なく済んでいた。近年は、今までに西布施地区で見られなかったイノシシ、サル、ニホンジカ等がぶどうの美味しさを求めて出没するようになった。今までと違った有害鳥獣との戦いの始まりである。

今回は、普及指導員から、自分たちに何ができるかを教えてもらい大変役に立った。また、地区としての取組で、鳥獣が近づきにくい環境整備も重要だと考えている。

今後は、鳥獣被害によりぶどう作りの意欲が失われないようにして、次の担い手に繋がる対策を行政と一体となって推し進めていきたい。

5. 普及指導員のコメント（富山県新川農林振興センター企画振興課・主任普及指導員・黒田 貴仁）

今回の取組みは、新川高校、JA、魚津市、当センター果樹担当、県農村振興課等、非常の多くの関係者の協力により、短期間で効率的且つ効果的に鳥獣害対策を実施する体制ができた。

特に、新川高校ボランティアの取組みは、中山間地域の労働力不足の解消に繋がるだけでなく、被害農家が高校生から元気をもらい、営農継続に前向きな気持ちになる心理的な効果が大きかったと感じた。

6. 現状・今後の展開等

- (1) イノシシ等にネット柵が噛み切られる事例が発生したため、補助事業を活用して噛み切られにくい柵（ワイヤーメッシュ柵）に順次更新し、鳥獣被害ゼロを目指す（R6 鳥獣被害防止総合対策交付金交付申請済み）。
また、メーカーの協力により、新規開発された侵入防止柵（非常に噛み切られにくく、安価でイノシシやハクビシンに対する効果が高い）の実証試験も行う予定（R6.7月開始）
- (2) 企業等にも農業ボランティア協力依頼を行い、更なる外部人材確保を目指し、中山間地域での労働力不足の解消等を図る。
- (3) 捕獲鳥獣の有効活用を推進するため、ジビエ事業者及び天神山エリアのワイナリーと協力し、西布施産ジビエとワインのコラボレーションによる地域活性化を図る。